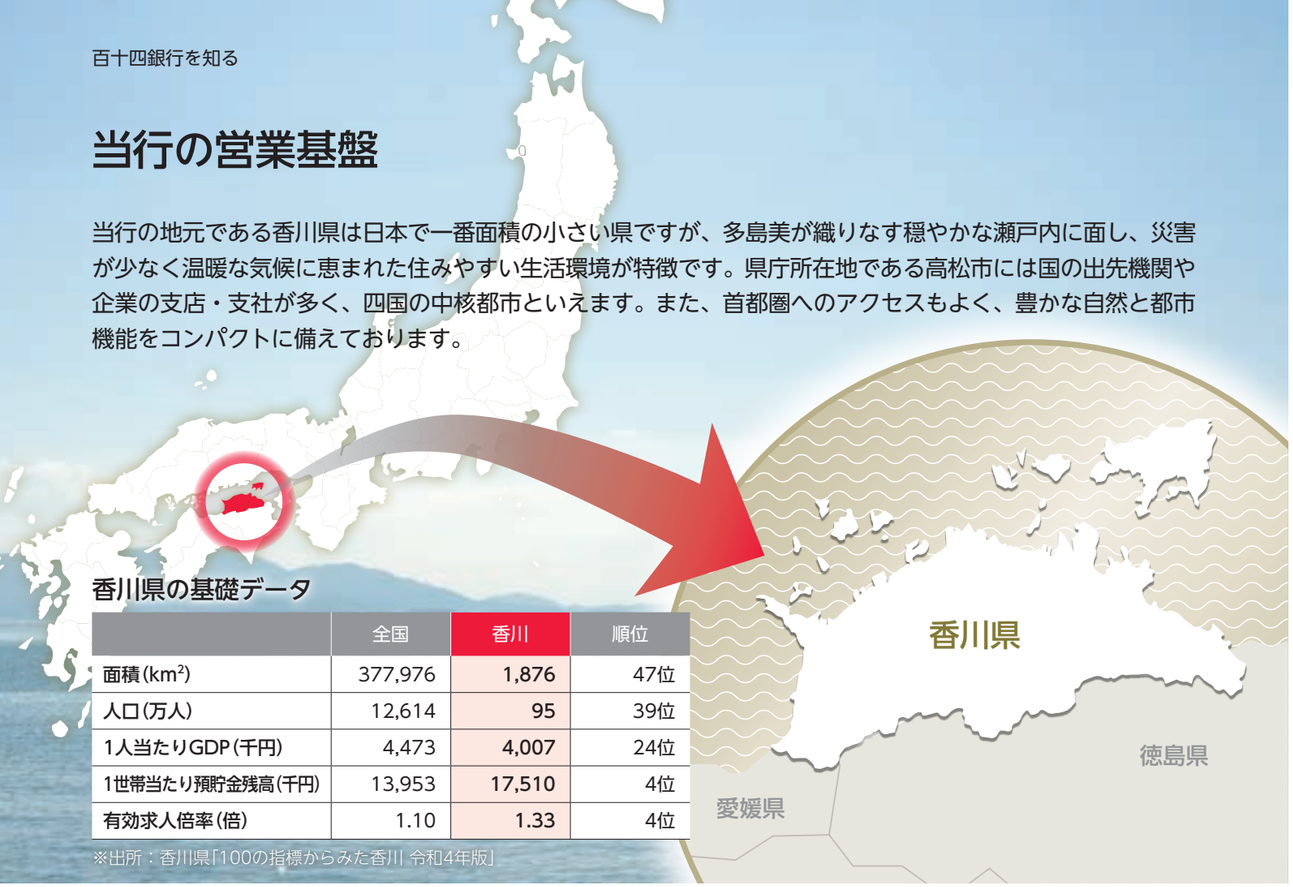
当行の営業基盤

当行の地元である香川県は日本で一番面積の小さい県ですが、多島美が織りなす穏やかな瀬戸内に面し、災害が少なく温暖な気候に恵まれた住みやすい生活環境が特徴です。県庁所在地である高松市には国の出先機関や企業の支店・支社が多く、四国の中核都市といえます。また、首都圏へのアクセスもよく、豊かな自然と都市機能をコンパクトに備えております。



香川県の基礎データ

	全国	香川	順位
面積(km²)	377,976	1,876	47位
人口(万人)	12,614	95	39位
1人当たりGDP(千円)	4,473	4,007	24位
1世帯当たり預貯金残高(千円)	13,953	17,510	4位
有効求人倍率(倍)	1.10	1.33	4位

※出所：香川県「100の指標からみた香川 令和4年版」

特徴 1 変化に強い産業構造

香川県内には、建設機械、自動車部品、電気機械などの分野で国内トップクラス企業の工場が立地しており、それらを中心に、高度なものづくり基盤技術を有する協力企業が多数集積しております。また、臨海部の工業地域を中心に、化学、非鉄金属などの基礎素材系の大規模工場が立地しております。加えて、冷凍食品や調味料などの食品関連の企業が県下一円に多数集積しております。

特定の業種に偏らないバランスのとれた産業構造であることから経済的ショックにも強く、また、多くのニッチな分野で活躍するニッチトップ企業を多く抱えていることも特徴です。

香川県が全国シェアトップの工業製品・農林水産物

●工業製品

全国順位	品目	製造品出荷額	全国シェア
1位	衣服用ニット手袋	4,294百万円	96%
	スポーツ用革手袋(合成皮革製を含む)	3,343百万円	74%
	うちわ、扇子(骨を含む)	2,691百万円	49%
	建設用クレーン	102,379百万円	46%
	鉄製金網(溶接金網、じゃかごを含む)	39,837百万円	23%
	冷凍調理食品	102,035百万円	8%

※出所：経済産業省「令和2(2020)年工業統計調査」

●農林水産物

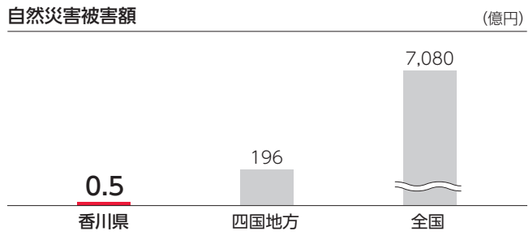
全国順位	品目	生産量	全国シェア
1位	金時にんじん	2,006トン	97%
	オリーブ	420トン	91%
	マーガレット	1,641千本	73%
2位	はだか麦	3,320トン	16%
	ラナンキュラス	1,772千本	14%
3位	ブロッコリー	15,400トン	9%
	ヒマワリ	1,523千本	7%
	にんにく	742トン	4%

※出所：香川県農政水産部「統計でみる香川の農業・水産業 令和3年度版」

特徴 2 自然災害が少なく、温暖で豊かな自然環境

香川県は、1年を通じて温暖な気候で、地震や津波などの自然災害も少なく、事業継続に有利な環境です。

自然災害被害額
0.5億円
全国で3番目に少ない



※出所：香川県「100の指標からみた香川 令和4年版」

特徴 3 交通と物流の拠点

香川県は、四国の玄関口として瀬戸大橋、四国横断自動車道、高松空港、高松港など広域交通体系が整備され、首都圏や関西圏との交通アクセスが便利なうえ、四国と本州を結ぶ交通の要衝として重要な位置を占めております。また、高松空港は「四国瀬戸内No.1の国際空港」をめざし、アジアなど複数のLCCの拠点化を進めております。

高松港入港船舶隻数(外航+内航)
34,820隻
全国で10位
四国で1位
(2019年)

※出所：国土交通省HP

特徴 4 情報通信関連産業の育成

香川県では、情報通信関連産業の育成に取り組んでおります。2020年11月に、情報通信関連分野の人材育成やビジネスモデルの創出拠点として、コワーキングスペースや5G通信環境を整えた「Setouchi-i-Base」を開業し、ICT活用に積極的な企業や起業を志す若者を支援しております。

当行は、同拠点において開催されるセミナーに講師を派遣したり、広くお客さまに情報提供を行ったりするなど、積極的に協力しております。

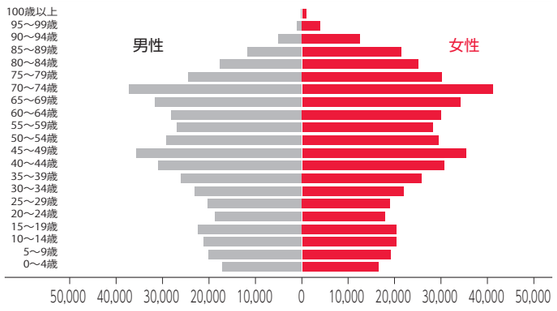
抱える課題 人口減少・少子高齢化の進行

香川県では、少子高齢化の進行に加え、就職などによる県外転出者の増加により、人口減少が本格化しております。

人口減少の進行は、生産年齢人口の減少や県内消費額の減少、地域活力の低下などさまざまな弊害が予想され、社会活動に深刻な影響を及ぼすことが懸念されております。

地域の持続可能性向上のために、若者に魅力ある「働く場」の創出や安心して出産・子育てができる環境づくり等が課題となっております。

香川県の人口ピラミッド(2020年)



※出所：総務省統計局「国勢調査」
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」